



国民の森林・国有林

中部森林管理局

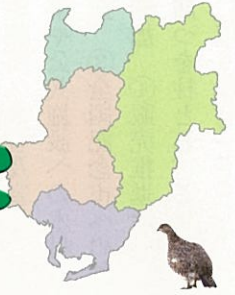
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎(026)236-2531

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

中部の森林



写真上：「裏木曾古事の森」で記念植樹を実施
写真左：協定書に調印後、握手を交わす安江裏木曾古事の森育成協議会長と笹岡東濃署長

木の文化を支える森づくり

「裏木曾古事の森」の集いを開催

10月8日、「裏木曾古事の森」の集いが加子母裏木曾国有林及び加子母村明治座で開催され、ヒノキの記念植樹と作家の立松和平さんによる特別講演が行われました。(関連記事3ページ)

平成16年度
国有林材PR月間
住宅部門への普及宣伝や
公共工事・公共施設への
木材利用の推進を要請

「販売課」平成十六年度の国有林材PR月間では、国有林素材PRフェア、国有林材製材品PRフェア等の全国共通行事のほか、局・署等における地域性を活かした取組みを行うこととしています。

また、木材を使うことが森林の健全性の維持及び地球温暖化防止にも寄与するという観点から、木材の最大の消費部門である住宅部門に向けて普及宣伝を行い、国有林材の需要拡大に努めることとして、本年度は、①住宅部門への普及宣伝、②公共工事や公共施設への木材利用の推進、③全国記念市への積極的な参加、④販売推進活動の実施の四つを柱とし、これらに重点的に取り組むこととしています。

国有林材PR月間行事予定

項目	日時	対象者等	内容
木材利用の要請活動	16.10.08	岐阜県庁・岐阜県内各市町村・国の各出先機関等	岐阜県木材利用推進協議会と共に要請を行う。
	16.10.08	愛知県庁・国の各出先機関等	愛知県木材利用推進協議会と共に要請を行う。
	16.11.30	長野県内各市町村・国の各出先機関・建築士会等	県産材振興対策協議会(局、県、県木連、県森連)として、要請を行う。
JR金山駅パネル展示会	16.10.23	一般市民	流域活性化センターとして、パネル展示や、丸太切り等を通じてPRを行う。
間伐材利用事例説明会	16.11.09	長野県内公共工事設計・発注者等	県間伐材供給センターと共に、赤沢休養林の木材利用工法展示エリアを活用して行う。
住宅メーカー等への売り込み	16.10.05 10.22	住宅・集成材メーカー	カラマツ材の利用促進を要請する。
	16.11.上旬	集成材メーカー	ヒノキ材の利用促進を要請する。
木曾ヒノキ販路拡大勉強会	16.11.10	中部局、近畿・中国局、木曾ヒノキ関係団体	木曾ヒノキの販路拡大を図るため、近畿・中国局も含め、勉強会を行う。



梶原知事(左)に木材利用を要請する山崎所長ら

この内十月八日には、岐阜県木材利用推進協議会と名古屋事務所が、岐阜県庁や教育委員会、警察本部等に出向き、山崎名古屋事務所長と瀬上岐阜県木材利用推進協議会長から梶原岐阜県知事、岩井県議会議長及び各部長長に対して「木の利用推進に関する要請書」を手渡し、公共施設・諸学校の木造化・内装木質化、土木工事等における間伐材の積極的な利用等の要請を行いました。

平成十六年度販売協力者へ
感謝状を贈呈

平成十六年度国有林野事業販売協力者の感謝状贈呈式が、十月十三日、木曾官材市売協同組合入札会場において土場活用委託販売と併せて開催されました。

昨年度、管内において立木・製品販売素材の一般競争入札で、積極的に国有林材を購入し利用の促進に協力いただいた方々に対し、感謝状を贈呈するものです。(贈呈者は次のとおり)

平成十六年度国有林野事業
感謝状贈呈者(敬称略)

〔立木販売の部〕

林野庁長官感謝状

- ・株式会社 柳木材

(岐阜県古川町)

中部森林管理局長感謝状

- ・木曾土建工業株式会社

(長野県木祖村)

- ・丸真木材

(岐阜県清見村)

- ・平澤林産有限公司

(長野県伊那市)

〔素材販売の部〕

林野庁長官感謝状

- ・株式会社 勝野木材

(長野県南木曾町)



(株)勝野木材(素材販売・長官感謝状)

- ・株式会社 西村木材店

(三重県松阪市)

- ・嶋田木材株式会社

(愛知県一宮町)

- ・丸ト木材市売株式会社

(愛知県小牧市)

- ・のむら木材株式会社

(長野県上松町)

- ・株式会社 丸麦

(長野県南木曾町)

かけ流しの湯
心のもった料理で
おもてなし

林野庁共済組合下呂保養所
あさぎり荘
電話 0576-(22)2410

「裏木曾古事の森」の集い 四百年後の未来にむけて、木の文化を継承

十月八日、岐阜県加子母村において、「裏木曾古事の森」の集い（裏木曾古事の森育成協議会、中部森林管理局・東濃森林管理署主催）が開催され、加子母中学生や、応募による一般参加者、関係団体、管理局署の職員ら約五六〇名が参加しました。

はじめに加子母村明治座（注）で記念式典を開催しました。

冒頭、加子母村木遣り保存会による「木遣り音頭」が披露され、伊勢神宮の式年遷宮の際、伐採した御神木を伊勢神宮に送る様子が表現されオープニング



ヒノキを植樹する関局長、立松氏、安江会長



記念看板（左）と記念標柱の設置（右）

を飾りました。
引き続き、主催者を代表して裏木曾古事の森育成協議会の安江会長から「古事の森の活動は今の自分達にとっては、観る事も、触れる事もできない超長期”日本の木の文化を支える森”を意識的に何世代にもわたって作り上げていこうとするものです。お集まりいただいた皆様に支えられてスタートできることに心より御礼申しあげます。」との挨拶がされ、来賓として、沖林野



オープニングの「木遣り音頭」の様子

庁業務課長、長屋岐阜県理事、粥川加子母村長から挨拶が述べられました。
その後、特別講演として作家の立松和平氏による「古事の森をつくらう」と題した文化講演会が開催されました。
「古事の森」構想の提唱者である立松さんは、世界最古の木造建築である法隆寺の小坊主として修行をする中で、約四百年毎に行われる大修復のためにも、大径材等の修復用資材の供給が必要であることを悟り、国有林において「古事の森」づくりの活動を始めたこと、生まれ故郷の足尾銅山における植樹が「貧者の一灯」としての森づくり活



講演で加子母中学校の生徒や参加者に語りかける立松氏

動であること等話をされ、日本の木の文化やふるさとの森林を守り育てることの大切さや、これらの活動に参加しようと呼び掛けられました。また、古「事」の森と命名した逸話や楽しい話を交えた立松さんの講演に、加子母中学校の生徒をはじめ、集まった聴衆から大きな拍手が上がりました。
昼食後、場所を加子母裏木曾国有林七七林班に移し、「裏木曾古事の森」の記念植樹を行いました。
冒頭、関局長より「古事の森が古くから伝統的建造物の用材を供出してきた裏木曾国有林に

設定されることは意義深いものであり、この活動により木の文化が継承され、多くの皆様が森づくりに参加することを祈念します。」との挨拶がされ、安江育成協議会長と笹岡東濃署長による裏木曾古事の森協定の調印、記念看板の除幕の後、全員で記念植樹を行いました。
あいにくの雨天となりましたが、参加者は、四百年の未来にわたり大径材が育つことを願いながらヒノキを植樹しました。



木の温もりが伝わる会場となった「明治座」

※（注）明治27年建築。回り舞台や両花道を備えた農村舞台で、樹齢四百年、長さ八間（14・5m）以上の巨木の梁等、県指定有形民族文化財に指定されている。

木曾ヒノキの美林を訪ねて

第2回森林倶楽部を開催

「指導普及課」森林倶楽部の第二回イベント「木曾ヒノキの美林を訪ねて」を十月二日に長野県上松町赤沢自然休養林で開催しました。

今回、会員八十七名が参加される中、関局長も同行して、指導普及課、木曾署、木曾森林環境保全ふれあいセンター等のインストラクターの案内により休養林内のトレッキングを十班に分かれて実施しました。

各インストラクターから「森林の働き」、「木曾ヒノキの各係



昭和60年の御神木伐採跡地で関局長と記念撮影

護事業」、「赤沢木材利用等展示エリア」等の説明を受けながら森林浴発祥の地「赤沢自然休養林」をゆっくりとトレッキングを行いました。

参加者の平均年齢は六十三歳、約六割が女性で、「歩く速さもゆっくりで十分森林浴が楽しめた」「とても説明が良かった」「静かな清流、大樹の森を森林鉄道に乗り森林浴ができて心身共にリフレッシュできた」など会員の方の感想も良好でした。

涼風の森林で

秋をさがそう

第六回森林ふれあい講座

「名古屋事務所」敬老の日の九月二十日、「JR秋のさわやかウォーキング」と共催で「第六回森林ふれあい講座」を開催しました。

参加者は、JR定光寺駅からゴール地点の中水野駅まで、約八キロの自然休養林を、秋をさがしながらゆっくり散策しました。中継地点の森林交流館では、記念品として職員手作りの竹炭と木のキーホルダーをそれぞれ百人に配布しました。

当日は少し蒸し暑いながらも初秋の風がこちよい絶好のハ



森林交流館では、記念品を配布

イキング日和となり、家族連れなどが訪れ用意した記念品は九時三十分の配布開始時間直後に終了となりました。

記念品を手にした人たちからは、素朴ながらも手作りのぬくもりが伝わる品に喜びの声が聞かれました。

一日の来場者は約千二百人余りに及び、終日賑わいをみせました。

急峻な流域での治山施行地や

雄大な立山の自然を視察

長野林政記者クラブ国有林視察

「広報室」九月三十日、十月一日の両日、富山署管内において長野林政記者クラブの国有林視察を実施し、治山施行地や立山室堂等を訪れました。



7月の大雨により大量に堆積した立山川流域

初日、台風の影響により朝からあいにくの雨となりましたが、石山署長、川田治山課長の案内により、上市町立山川流域における復旧治山工事の実施箇所等を視察しました。

川田治山課長より、「立山川は、今年七月の大雨による土石流により施設被害が発生し、現在復旧工事を進めていることや、管内の流域は、三千級の立山の麓から短い距離を富山平野まで一気に流れるため、急峻で土石災害の危険性が極めて高く、さらに溪流の幅が広く、中には堤長二〇〇メートルにも及ぶ治山ダムをはじめ、鋼製施設等を設置して

渓床の保護や溪流の安定を図る等、下流域の住民の安全を確保するため、治山事業が重要な役割を果たしている」等の説明が

されました。

記者クラブ員からも、急峻な溪流や災害による土石の量に驚きの声や、治山施設の働きに関する質問が出されるなど、治山ダム群をはじめとする富山県における治山事業の重要性を認識していただきました。

翌日は、台風一過の雲一つない秋晴れとなり、一行は立山室堂へと向かいました。

途中、巨木百選の一つ「平立山の杉」を視察し、その大きさに圧倒。また美女平、弥陀ヶ原におけるナナカマド等の紅葉や、室堂平の雄山をはじめとする雄大な立山のパノラマには、現在も多くの観光客が訪れており、大きな観光資源であることが感じられました。ここでは、富山署のグリーンパトロール等の活動の成果もあり、ゴミなどが減っているとの説明もされました。

この後、名勝地である称名滝とその周辺の復旧山腹工事を視察し、帰路に付きましました。

今回の視察では、国土保全のウエイトが高く治山事業の必要性、立山をはじめとする自然との共生活動等を理解していただきました。



蒸し暑い中汗だくになりながら作業を実施

「名古屋事務所」「台風被害跡地の森づくり・雑草を刈り、木の成長を助けよう」と題し、第八回名古屋シティ・フォレスト事業を九月十一日に瀬戸国有林で行いました。

第八回CF事業

下草刈り体験

名古屋C・F

(シティ・フォレスター)

事業を各地で開催

昨年に続き、国有林内にある台風被害跡地に山火事跡地と「森世紀の森」も作業地に加えて、下草刈りを行いました。

当日は、二十六名の隊員が七班に分かれて、下草や雑木を刈り払いしました。中には、植栽木が見えない位に成長した雑木もあり、鎌では手に負えない程大きな物は、鋸を使つての作業となりました。

参加した隊員たちは、蒸し暑い中での作業に汗だくでした。刈り払った後は見通しが良くなり、植栽木の成長に大きな助けになりました。

第九回CF事業

枝打体験

【東濃署】十月二日、中津川市阿木恵那国有林において、第九回名古屋シティ・フォレスト事業を実施し、枝打作業に十七名の隊員が参加しました。

当日は曇り空で、あと少しで現地に着くという時に雨がポツポツ降り始めました。霧雨が降ったりやんだりという中、暑くもなく寒くもなく、逆に作業がしやすい一日となりました。

現地に到着後、職員から枝打作業の方法等について説明を受



枝打作業に汗をかいた後全員で記念撮影

けたあと、作業に取りかかりました。作業地は急な場所ので、傾斜に慣れていない隊員は足場の確保をしながらの作業に苦労していました。休む間も惜しむほど枝打作業に熱中しました。午後からもそのペースは衰えることなく、作業は無事終了しました。

参加者の中には、「山の仕事を一度やってみたかったので参加したが、年齢や体力を考えるとこれが最初で最後の参加となるけれど忘れられない体験になった」という方もおられ、CF事業が山の仕事や森林の働きを理解していただくため、重要な役割を果たしていることを再認識できる機会となりました。

「森の資料室」をオープン

【技術センター】森林技術センターでは、国有林における技術開発や試験地の調査などを行っていますが、このたび旧下呂営林署時代の図書や林業用具などを整理し、庁舎の一室を「森の資料室」としてオープンしました。森林・林業・国有林に関する書籍(約千冊)のほか、チェーンソーの歴史、集材機械の模型、森林測量用具、昔の伐採作業の写真パネル等を展示しています。

特にチェーンソーのコレクションは名古屋大学名誉教授山田信也氏より寄贈いただいたもので、当時の林業労働の実情を知ることができる貴重な資料です。是非一度お越し下さい。



森林技術センターの資料室

研修予定

中央研修(森林技術総合研修所)

▽治山(中堅)Ⅲ(森林整備)

11月8日～11月12日

野田 和浩(治山課)

▽森林ふれあい

11月8日～11月12日

酒向 篤憲(名古屋)

若林 鶴幸(南信署)

森田 武士(南木曾)

▽森林ボランティア活動指導

11月15日～11月19日

▽林道中堅Ⅱ研修(個別技術)

11月15日～11月19日

奥原 英(木曾署)

局研修(研修所他)

▽森林官養成実務研修

11月8日～11月12日

平成12年度Ⅲ種採用職員

▽管理実務研修

11月16日～11月18日

局、各署等の管理係長等

北村 大

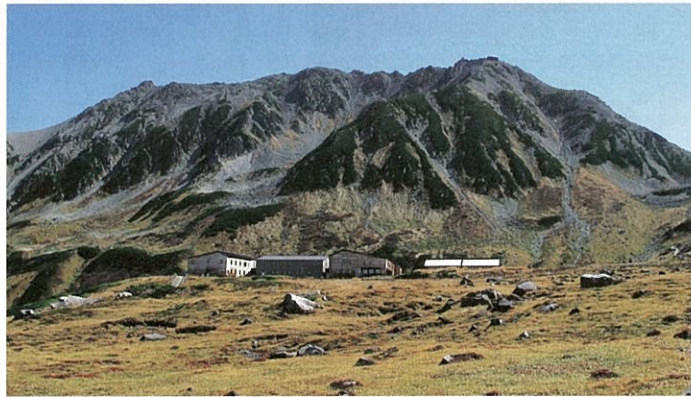
(指導普及課)

秋深まる立山周辺の自然 富山

十月期、立山周辺の山々は、ダケカンバ、ミネカエデ等の樹木の紅葉が色づき、これから訪れる長く厳しい冬に向け、準備が始まっています。



日本一の落差350mを誇る名勝「称名滝」



室堂平から望む立山（右から主峰雄山2991m・大汝山3015m）



荒々しい岩肌の剣岳（2998m）



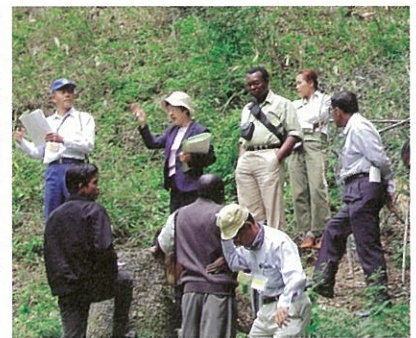
山頂方向から紅葉が色づく弥陀ヶ原

JICA研修生が 国有林を視察

「南信署」去る九月一七日、JICA（国際協力機構）が行っている平成一六年度 森林・林業プロジェクトカウンターパート合同研修の研修生が、管内の国有林を視察しました。

研修生はアルゼンチン・ミャンマー・インドネシアなど七カ国十二名で、上伊那農業高校を拠点に活動している「みどり塾」との交流を目的として伊那谷を訪れたもので今回併せて国有林の視察を行ったものです。

午前中は、下諏訪町東俣国有林の木の文化を支える「御柱の森」、木落し坂、諏訪大社下社秋宮を見学しました。千二百年の歴史を



川村署長の説明に聞き入るJICA研修生

持つ地域伝統文化を支える国有林の役割、モミの巨木の伐根とその周辺に植樹されたモミの苗木から二百年後の御柱にかける

あもろ 天然湿原で

外来種の除去作業を実施

「飛騨署」飛騨市河合中学校の全校生徒・父兄が九月一八日、天生国有林内の天然湿原へ通じる歩道で、外来種であるオオバコの除去作業を行いました。

この作業は、公園内の湿原にオオバコが繁殖し在来種の生長を妨げていることから、郷土の貴重な自然を守ろうと同校PTAが家庭学級でのボランティア活動の一環として実施したもので、約八〇名が参加しました。

当日は、駐車場で除去についての説明を受けた後、五班に分



天生湿原でオオバコの除去作業

人々の熱い思いに感心していました。

また、木落し坂の上に立って巨木が下る様子を想像し、お宮の境内の四隅に建てられた御柱の大きさに驚きながら、その役割や祭りの周期など素朴な質問が寄せられていました。

午後は長谷村の浦国有林に入り、石灰岩が作り出している「巫女淵」などの視察や石灰岩特有の植物を観察、「延命水」のいわれを聞きながら岩清水を味わっていました。

かれて駐車場周辺や歩道で約二時間の堀採り作業に汗を流しました。

今回が初めての実施でしたが、「来年は種があまり散らない早い時期に」、「小中学校一緒に実施したほうがいい」との意見を残し下山しました。